

偽善者ではありません。妬みも競争意識も一切ありません。

この進言書は No.19 となります。

自民党重鎮の皆様へ

福島市矢剣町11-3星野節子024-563-7650

<https://ameblo.jp/animal-police>

Ameba検索で、「動物の繁殖は虐待」で検索を

## 旧優性保護法を復活させて、知的障害者に強制避妊手術を8歳からを義務づけることを進言します。

「こどもまんなか」「資産倍増計画」「高齢者の医療費負担増」「年金納付期間の延長」「インボイス」に大賛成です。安倍政権の良い点を継承し、アベノミクスの尻ぬぐいをしている感のある有事の総理・岸田内閣を支持します。故 松下幸之助氏は40年も前に「これから日本は長い不況の時代に入る」と。そうになりましたし、そうならないはずがありません。だからこそ「痛み分け精神」を根付かせなくてはいけないのに、未だに、お金クレー愚民と、偽善政策を掲げる野党が日本をひっかき回しています。

### 【進言事項】

旧優生保護法を人道的避妊法に改名して復活させ、脳障害のある方への強制避妊手術を8歳から義務づけることを進言します。

### 【進言理由】

1、旧優生保護法は人道的避妊であり、問題の核心に触れた措置であり、公益性が高く、日本国憲法の精神（公共の福祉に寄与）に合致します。知的障害者がコミュニティに一人いるだけで、そのコミュニティはグチャグチャにひっかき回されて全員が不幸になり、人も動物も不幸しかなれません。

2、知的障害者が出産した場合、ネグレクトになる可能性が極めて高く、公機関で子供の世話をするしか方法はありません。知的障害者の出産は、増税を無限に続けざるをえない要因になるでしょう。旧優性保護法に基づく強制避妊は世界に誇るべきすばらしい措置だと自慢できるため、早急に復活させる必要があります。

3、以下にネットから貴重な記事を転載します。

=====転載はここから=====

「障害者は子どもをつくるべきではない」と信じていたのは、優生政策を進めていた行政や医療関係者だけではなく、親や福祉関係者の多くが、生活上のリスク回避という別の見地から、断種を容認していました。

例えば、養護学校を卒業して、通勤寮で暮らしながら、福祉工場で働いていた軽度の知的障害者の場合、ある程度自立生活が可能であり、年頃になれば、本人も親たちも恋愛や結婚を意識することになりました。しかし、そこで問題になったのは、本人に子どもを育てられるだけの養育能力があるかどうかでした。子どもに対する愛情は示しながらも、無意識のうちに、子どもの身の回りの世話がおろそかになり、ネグレクト状態を招き、子どもを乳児院や児童養護施設に預けざるを得なくなるケースもありました。また、自分たちの養育能力や経済力も考えずに、無計画に次々と子どもをもうけて、家庭生活が破たんするケースも見られました。

保護者からの信頼の厚かった福祉関係者も、結婚や出産には否定的だったり、慎重な立場でした。1950年代の知的障害者の親向けの機関誌には、専門家たちの厳しい意見が載っています。

=====転載はここまで=====

4、20年以上も前ですが、警視庁広報広聴課職員が「児童虐待より動物虐待のほうが世間の反応が凄くて、動物虐待事件が起きると警視庁へガンガン電話がかかってきます」と仰いました。

繁殖による劣悪多頭飼育事件を起こすのは、主に「知的障害者」「うつ病の人」「ゴミ屋敷住民」です。脳が健全に機能している一般人は繁殖をしないため、虐待多頭飼育にはなりません。

5、「脳障害のある方」「うつ病でやぶれかぶれの方」「自暴自棄者」が事件を起こします。よって、動物愛護法をどれだけ改正しようとも、刑法をどれだけ改正しようとも、旧優性保護法の復活をしない限り、動物を守ること人間を守ることできません。旧優性保護法の復活がない限り、自活できない方ならびに自活できない方が産んだ子供の養育にかかる福祉費を賄うための増税を延々と繰り返す羽目になるはず。国民は更に貧困化し、誰も幸せにはなりません。

6、「でしゃばり共産脳さえいなくなってくれば！！」という怒りでいっぱいです。共産脳による「偽装福祉政策」のせいで日本は実質共産主義となりました。小泉純一郎総理は、日本を実質共産主義から本物の資本主義に変えようと尽力された初の総理だと思います。

7、Webライター木下真の見解は、断罪すべき欺瞞に満ちた見解ですが、

**【後編】旧優生保護法を陰で支えた社会通念**（ <https://www.nhk.or.jp/heart-net/article/79/> ） をご一読くだされば幸いです。福祉に携わる現場の本音・知的障害の子を持つ親の本音が載っています。

子煩悩で親バカの知人が「夫は知障の子供だけは嫌っている。知障の子供だけは“離れ”に住まわせている」と。実の親ですら知的障害者を持って余しているのが実態です。知的障害者が隔離されずに、一般社会で生活していることが引き起こす犯罪を考えると、旧優性保護法がいかにもすばらしく、人道的な法律だったかを認識できます。

8、知的障害者は動物の去勢避妊を理解できないため、産ませて増やして、猫が近隣住民から毒殺されたり、棒を持って追いかけて回す者がいて、猫が交通事故死するという虐待が行われているのです。

諸悪の根源は共産脳だと断言できるほど、共産脳は『欺瞞に満ちた偽装人権主義』により、多くの社会問題を引き起こしてきました。

9、旧優位性保護法を排除した議員をつるし上げて批判したい気持ちでいっぱいです。物事の本質を見極めず、表面的な判断だけで平等を目指すのは、福祉費を支える側への虐待です。